

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三-15
TEL 027-2555-3434
FAX 027-2555-3435
http://www.neues-asahi.jp

今年も残すところ数日となりました。

今年最後の「ノイエスだより」に弊社社長の石川靖より最近の印刷業界についての一文を掲載いたします。

「必要なときに、必要なものを、必要なだけ」

若者の活字離れによって印刷会社が目撃されたことと私たちの業界ではよく言われますが、私は印刷会社が駄目だから、活字離れが起きたのではないかと思っています。と言うよりも実際、活字離れは起きているのでしょうか。人々が活字を目にする機会は以前より増えているのではないのでしょうか。つまり紙に印刷された活字を見る機会が減ったということでしょうか。

印刷物とは何のためにあるのか。それをあらためて考え直さなければいけません。印刷物は人に情報を伝えるためのツールであって、人々にとつてそれは特に紙である必要はないわけです。以前は人に情報を伝える手段として、一番手頃なものが紙の印刷物でした。だから紙は情報伝達のツールに気軽に選ばれていたわけです。しかしインターネットという自由自在、変幻自在なメディアの登場により、人々は安価に便利に情報を発信できるようになり、紙の需要は一気に減少しました。紙でなくてもいいものなら私たちは紙にこだわらずに、人々に最適なツールを提案しなければいけなかったのです。つまり製造業的な立場ではなく、情報産業的な立場に立って物事を考えるべきだったのでしょうか。一方、紙の方が便利なのに電子媒体に変わってしまったものもあります。特に書籍。これは紙の方が便利でしょう。しかし以前のような考え方、つまり一品種大量生産的な発想で本づくりに取り組んでいくとしたら、今後も書籍の需要は紙に戻ってこないでしょう。「必要なときに、必要なものを、必要なだけ」。この概念に徹して新しい生産システムを構築し、一般消費者に安価で本を提供できる仕組みを創らないかぎり紙の本に未来はないでしょう。

会社が30年生き残れる確立は0.025%と言われます。つまり1万社に2.5社。弊社はあと3年で70周年、33年で100周年を

迎えます。現在100周年に向けた取り組みに着手しています。しかし、これからの30年は今までの30年とはわけが違います。IoT、AI、ビッグデータ等の活用により世の中は大きく変化します。

それが私たち印刷業界に与える影響は多大でしょう。果たして弊社は100周年を迎えることが出来るのか。「必要なときに、必要なものを、必要なだけ」。この考え方を具体的に実現できれば、なんとか100年を迎えられるかなと考えています。もちろん私はその時はこの世に存在していません。

石川 靖

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

新春特別企画

七宝五人展

〈企画〉

大倉美枝子 斉藤かほる 斉藤芳子 田島智子 中島たか子

会期 一月七日(土)～二十二日(日)
午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

ノイエス朝日で個展、二人展、グループ展で大作を中心に発表し、さらに県内外で活躍している七宝作家五人による新春にふさわしい展覧会です。

七宝の数々の技術と個性溢れる色彩の美しさを楽しんで下さい。アクセサリー、小物も展示販売いたします。

17回忌追善 横手由男遺作展 + 中里麦外俳書展

会期 一月二十八日(土)～二月五日(日)
午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

※案内状は次回にお送りいたします。

先日、桐生の奈良書店のご主人から「あーとほーる銚座」(桐生市本町四丁目)で開催される関東祭礼「山車・鉦・屋台行事」のシンポジウムのご案内をいただいたので、行ってきました。

基調講演は西村幸夫氏(東京大学先端科学技術研究センター教授)と木村直之氏(東京大学大学院人文社会学系研究科教授)そしてパネルディスカッションは神田祭、佐倉秋まつり、とちぎ秋祭り、本庄まつり、桐生祇園祭の関係者です。最後までは聞けませんでした。最後までは聞けませんでした。

その後、ユネスコの無形文化遺産に東北から九州までの十八府県の三十三行事が登録されました。

多くの市町村の熱心な人々や支援者、そして行政関係者で継承されていく文化遺産を資源として地域づくりに役に立てていくという未来展望を感じます。

花火のように一瞬の美しさ、儂さの裏側に長年の伝統技術の継承があるように、数日の祭りに多くの人々の情熱と努力による長い時間があることを感じます。

「ローマは一日にしてならず」という言葉がありますが、文化も瞬時の思いつきで出来るものではなく、名誉や肩書きでなく、名もなく・・というより、そんな思いを持つ多くの人々から継承されていくものが本物のように感じます。

ノイエスでは、地域の作家の作品発表の「場」として、また多くの作品作りを楽しんでいる人々の発表と交流の「場」として今後も皆様に新しい風を感じていただければと思っています。

今年、ノイエス朝日での展覧会は十六企画、九回の貸ギヤラリーと二十五展示を実施いたしました。

新しい作家やお客様との出会い、また作品との出会いがありました。そして突然のお別れもありました。

年齢とともに一年があつと言う間に過ぎるようになって感じますが、充実した時間を過ごすことが出来ました。

「ノイエスだより」を楽しんで読んでいただいている方、また、いつも来廊してくださる方、今年一年感謝をこめてスタッフ一同お礼申し上げます。

ありがとうございます。また来年も充実した展示で皆様楽しんでいただけるよう展覧会を実施していきますので、よろしくお祈り致します。

(武藤)

